

障害福祉施設における新型コロナウイルス感染症対策について

アドバイザー：藤田 烈 氏(国際医療福祉大学)

武藤 剛 氏(北里大学)

実施日時：令和2年12月11日(金)

協力施設：第二わかば園(生活介護)

○健康管理について

《職員》

- ・福祉施設での感染初発例の多くが職員であることを踏まえ、職員の健康管理については、職員本人からの申告制ではなく、出勤後に第三者が体温計測するなど、相互チェックの体制を構築することが重要である。
- ・陽性者が出た後の感染拡大防止も重要だが、まずは施設に持ち込ませないことが最重要であることを認識する。

《利用者》

- ・利用者は申告制ではなく、施設到着後に(保護者の前で)健康状態をチェックし、体調不良が疑われる場合は、利用を控えてもらう等のお願いをする必要がある(その際、万が一感染者が出たら、施設利用者・関係者全員に影響が出て施設が閉所になることもちゃんと理解してもらう)。

※利用者の特性から利用者より職員の方がウイルスを施設に持ち込む可能性が高い。

○衛生管理について

《執務室》

- ・各部屋の入口等に据え置き型アルコール消毒液を設置し、入退室時には必ず手指消毒をするなど、わかりやすい、使いやすいシチュエーションを作り出すことをおすすめする。
- ・更衣室等を利用する際は、会話を控え何名かずつ交互に利用するなど、密な状況を作らないよう留意する。

《事務室》

- ・PC や電話機等、職員が共有して使用する備品に関しては、感染のリスクがあるため、アルコールウェットティッシュ等での除菌が望ましい(PC や電話機等のわきにアルコールウェットティッシュ等を配置して毎回消毒するなど)。
- ・マスクをすることが前提だが、アクリルボード等の設置については、多くの職員が常時職員室にいたのであれば設置は必須である。しかし、普段は別部屋にいることが多いのであれば、手指衛生や人が良く触れる場所の消毒を重視することにより感染リスクは低下するため、設置する必然性は低くなる。

○介助時の留意点について

《職員》

- ・介助時のマスクの着用、介助前後のアルコール消毒は徹底して行う。
- ・ゴム手袋の着用は必須ではなく、手指衛生の延長と捉えるべき。むしろ、手袋をつけたまま色々な場所を触らないこと、手袋の取り外し時は外側(ウイルスへの暴露側)を触らないようにするなど、考慮しなければいけない点が多い。
アルコール消毒をしない場合は、使用する度にゴム手袋は捨てること(1動作1廃棄)。
- ・エプロンやフェイスシールドについては、食事や歯磨きの介助時等、介助者の唾液等に触れる可能性があるシチュエーションで利用することは有効である。
ただし、アルコール消毒をしない場合は、ゴム手袋同様使用する度に交換すること(1動作1廃棄)。
- ・咽る人の介助の場合は、普段1人の職員が2人を介助する場合でも可能な範囲でマンツーマン対応することが望ましい。

○環境整備について

《清掃(消毒)》

- ・全館清掃(消毒)は1日1回で十分だが、ドアノブなどの人が良く触れる場所は都度消毒すると感染リスクは低下する。
- ・清掃をする際のポイントは、人が良く触れる場所、手が触れることができる位置(高さ)の場所を重点的に清掃すること。
- ・次亜塩素酸ナトリウム(ハイター等)の使用が推奨されるが、アルコールウェットクロス等でも代用可である。

- ・霧吹き等で吹きかける場合、必ずふき取りをして、満遍なく消毒液がいきわたるようにする。

《換気》

- ・窓の開放による換気については、密度が高い時は常時開放、それ以外の時は 1 時間に 1 回程度換気すると良い。
- ・サーキュレーターは有効性が高い。部屋の中に空気が滞留しない、窓から空気が出る位置に配置するなど考慮すると良い。

○陽性者が出た場合の対応について

- ・施設関係者(職員・利用者含む)から陽性者が出た場合、全館消毒の必要はなく、陽性者が日常的に触れていた場所を消毒することが重要である。
- ・部屋の消毒については 3~4 日、完全に放置すればウイルスはほぼ消失する。(例:施設を完全休止して、1週間部屋を全く使用しなければ消毒作業は必要なし)

○その他

《送迎》

- ・マイクロバス等での送迎が一番感染リスクが高い。密を作らないように乗車人数制限をする、乗車前に検温及び消毒を実施する、車内ではマスクを必ず着用する、車内ではおしゃべりをしない等を実施する必要がある。
- ・少なくとも前後 2 か所以上の窓を開放して、空気が流れるように配慮する(冬期は寒いので、窓を全開にする必要はない)。

《備品について》

- ・携帯型アルコール消毒液は使われないことも多いので、固定のアルコール払い出し量の確認等が必要である。
- ・マスクについて、布製マスクだと他者へ感染は防ぐことができるが、自分が感染するリスクは残る。予算等の問題はあると思うが、使い捨てのサージカルマスクの着用が推奨される。
- ・加湿器については、感染対策という観点においては、それほど意味はない。